

植樹式 2011



時の蘇生・柿の木プロジェクト

4 月 2 日		ジョスエ・カルドゥッチ第一中学校 1 イタリア・ラクイラ県・ラクイラ市
4 月 27 日		ブレダ中学校 2 イタリア・ミラノ県・サンジョバンニ市
5 月 8 日		ベットーレの新公園 3 イタリア・プレシア県・ブッファローラ市
5 月 11 日		ノステル修道院・隣接公園 4 イギリス・ウエストヨークシャー
5 月 17 日		聖マッシミリアーノ・コルベ教会 5 イタリア・プレシア県・カイオンヴィーコ市
5 月 18 日		バニョーロ・メッラ総合学校 6 イタリア・プレシア県・バニョーロメッラ市
5 月 19 日		レオナルド・ダ・ヴィンチ国立総合学院 7 イタリア・プレシア県・カステネードロ市
5 月 21 日		コメッツァノ・チッツァーゴ中学校 8 イタリア・プレシア県・コメッツァノ・チッツァーゴ市

ジョスエ・カルドゥッチ 第一中等学校



イタリア



ラクイラ県・ラクイラ市



2011 年 4 月 2 日

2008 年の秋、国際的な人道組織である「戦争なき世界」から「平和と非暴力のための世界行進」というプロジェクトが発案されました。このプロジェクトにより、2009 年 10 月 2 日のニュージーランドから、2010 年 1 月 2 日のアルゼンチンまで、何百万人という人々の参加がよびかけられました。そして、この「平和と非暴力のための世界行進」のブラジルのコーディネーター、ティツィアーナ・ヴォルタさんによって、2011 年にカステネドロの新しい学校と、ここラクイラのジョスエ・カルドゥッチ第一中等学校の植樹が実現しました。



植樹式は、2011 年 4 月 2 日 午前 11 時から、ジョスエ・カルドゥッチ第一中学校において、学校関係者、地元の諸団体、森林グループの代表たち、たくさんの人々の出席のもと開催されました。ラクイラは、2009 年に州の中心アブルッツォが大きな震災にみまわれています。この震災を語り継ごうと 1 年生たちは壁画を描くようになりました。植樹式で行われたワークショップでは、白い大きな壁に大きな実をつけた柿の木を描いていきました。今後は、この 1 本の柿の木が伝える平和のメッセージが、この壁画に描かれていくことになるでしょう。



フレダ中学校



イタリア



ミラノ県・サンジョバンニ市



2011年4月27日

A SCUOLA ALLA MEDIA CERIMONIA DI PACE PER L'ARRIVO DEL «KAKI TREE»

Sopravvissuto alla bomba atomica il simbolo di Nagasaki approda a Sesto

— SESTO SAN GIOVANNI —

LO HANNO disegnato, cantato e lo hanno pure fatto protagonista di una poesia. Infine, lo hanno piantato nel giardino della scuola. Se ne prenderanno cura fino a giugno, poi a settembre il testimone passerà ai bimbi che oggi sono in quinta elementare e che domani saranno in prima media. Ieri mattina, gli studenti della scuola Breda hanno messo a dimora il loro Kaki Tree. «L'albero discende da quello sopravvissuto alla bomba atomica di Nagasaki — spiega la professoressa Rosi Braga — ed è stato riportato alla vita grazie alle cure del dottor Masayuki Ebinuma, agronomo e medico delle piante». Vent'anni fa l'associazione fondata dall'esperto decise di riprodurre alcuni esemplari e di distribuirli alle scuole di tutto il mondo. Prima di approdare a Sesto, il Kaki Tree ha fatto un lungo viaggio. «È stato sottoposto a controlli sanitari in Giappone e in Ita-

lia ed è stato in dogana due settimane — racconta la docente —. A gennaio è arrivato da noi e oggi (ieri, ndr) lo abbiamo finalmente messo in giardino». Grande lavoro da parte di tutti, a rimbocarsi le maniche sono stati gli studenti.

«**ABBIAMO** scavato, setacciato il terreno sassoso e abbiamo aggiunto del terriccio buono da giardino. Ma sotto il sole si fa troppa fatica», confessano i ragazzi. Ieri mattina a coprire la fossa con le palate di terra c'erano anche l'esperta del verde Geraldina Strino e l'assessore all'Ambiente Lella Brambilla. Orto didattico da una parte, educazione alla pace dall'altra, gli alunni di Breda, Galli e Anna Frank hanno appeso delle foglie di kaki disegnate, su cui erano stati applicati messaggi di speranza di Gino Strada, Einstein, Gandhi, De André, Rodari e John Lennon. «Ora è solo uno sticco con le radici, ma domani sarà un albero con una folia chiama-

— commenta il preside Domenico Brisci —. La scuola è come un condominio, dove elementari e medie vivono in comunità. Affidiamo ai bambini della Galli la cura dell'albero». Con un diploma che li dichiara «Amici del Kaki» e che attesta il passaggio di consegne.

Laura Lana



MESSAGGI I bambini hanno appeso ai rami parole di pace (Spf)



ベットーレの新公園

 イタリア

 ブレーシア県・ブッフアローラ市

 2011 年 5 月 8 日

ドン・ミラーニ協同組合は、住宅地の造成目的で、1973-1974 年にコッカリオに設立され、その後も居住地の建設を目的とし事業を続け、近年では、居住地の公園建設、緑地部分への種まきなども積極的に行っています。

今回、植樹を申し込んでくれたのは、ドン・ミラーニ協同組合長のシレオ・マリオさんです。植樹は、5 月 8 日に行われました。植樹された公園は、まわりにまだ住宅もない、新しい公園ですが、今後はドン・ミラーニ居住地の住民だけでなく、ブッフアローラ区、幼稚園、小学校、中学校そして、地域のボランティアの人々が柿の木に関わっていくことになります。

また、2011 年 5 月 17 日には、ブレーシア、カイオンヴィーコの植樹式の後に、防火団セラの方と一緒に海老沼先生が、ベットーレ新公園を訪問しました。海老沼先生は、植樹されている柿の木の状態を見てくださり、「土もよく、大丈夫です」とのコメントをくださいました。



ノステル修道院・隣接公園



イギリス



ウェストヨークシャー



2011年5月11日



2006年3月26日のイギリス・ハダースフィールド、エジャートン墓地の植樹申込者であるジョナサン・アダムソンさんが今回の植樹申込者です。ジョナサンさんは、2006年の植樹以来、柿の木プロジェクトを自分の住んでいる地域で推進していきたいと思い、自ら近隣の学校や教会など10数か所へ手紙を送り、柿の木プロジェクトを紹介してくれました。その中の2か所から、是非植樹したいという希望が寄せられ、2010年のフライングデールズ英国教会学校に引き続き、2011年のノステル修道院・隣接公園での植樹が実現しました。ノステル修道院は、ウェストヨークシャーにある修道院で、敷地内に広大な公園があり、レストランやショップもあり、多くの人が訪れるところです。植樹には、フェザーストン高校の生徒数名が参加してくれました。生徒や修道院の関係者たちは、ジョナサンさんから柿の木プロジェクトについての話を聞き、続いてロンドンから参加してくれた実行委員の大谷さんが海老沼先生からのメッセージを読み上げてくれました。生徒たちはみんなでシャベルをまわして、植樹を行い、みんなの拍手で植樹を終えました。

その後、修道院内で、大きな柿の木が描かれている紙に葉や柿の実にメッセージを書いたものを貼っていき、素晴らしい作品を完成させました。また屋外では、各自が事前に描いた作品を手にとって並んでくれて、自分の絵についての説明を語ってくれました。

今回の植樹にご尽力いただいたジョナサンさんをはじめとする PLACE の皆様のご協力に感謝します。

聖マッシミリアーノ・コルベ教会



イタリア



ブレシア県・カイオンヴィーコ市



2011年5月17日



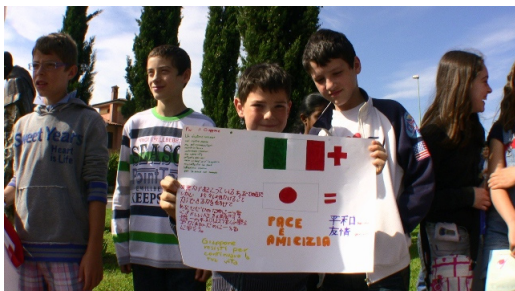
聖マッシミリアーノ・コルベ教会での植樹を申し込んでくれたのは、ブレーシア・エコロジー防火団セラのモリナリ・ポルトロ氏です。2011年は、この教会に由来するコルベ神父の没後70年、また防火団セラのグループ創立35周年にあたる年であることから、「平和」の柿の木の植樹を希望しました。コルベ神父はフランチェスコ修道会の修道士で、何年か長崎にも居住しています。その後、アウシュビッツ強制収容所で、ある軍曹の身代わりとなり、47歳で処刑された人として、讃えられています。またモリナリ・ポルトロ氏の属するブレーシア・エコロジー防火団セラは、丘陵地帯の監視と保護、回復を進めており、自然を大切にする活動を展開、この6年間で「谷の緑」という平和の行進を推進しています。

5月17日の植樹式は、防火団セラの人々を中心

に進められました。近所の幼稚園や、小学校からたくさんの子ども達が参加してくれました。幼稚園生たちは、白い紙に柿の木を描いたものを旗のように長い棒の先につけて、行進して教会の庭にやってきました。既に集まっていた子ども達は、海老沼先生に自分たちのつくった作品や、この度の日本で起きた震災に対するメッセージを見せてくれました。

植樹式は、子ども達による発表を中心に行われました。低学年の子ども達によるピアノによる日本とイタリアの国家の演奏の後、ビバルディの「春」や、ベートーベンの「歓喜の歌」の素晴らしい演奏もありました。高学年の子ども達は、全員で詩の朗読をしてくれました。またチェロの演奏や歌の披露もありました。歌の最後には、たくさんの白い折鶴が空高くなげられました。

関係者、海老沼先生の挨拶の後、柿の木の植樹が行われました。植樹場所は、教会正面左手のマリア像の前です。代表の子ども達によって丁寧に土をかられていきました。最後には白い大きなハトをかたどったものが柿の木の横におかれ、「長崎からの平和の柿」と記された立派な石の名盤も立てられました。最後は参加者全員で記念撮影を行いました。



バニョーロ・メッラ総合学校

イタリア



ブレシア県・バニョーロメッラ市



2011年5月18日

2011年5月18日の植樹式に先駆けて、当日の朝に大きな旗を持ったこども達による行進が行われました。こども達は行進を始める前にフランチャコルタ・モンテ・オルファノ平和会議協会のフランチェスコさんから柿の木プロジェクトについての話と、海老沼先生のスピーチを聞きました。行進は、大きな芝生の公園からスタートし、公園内の長い道を通り、町をぬけて、学校へ到着しました。この学校の校舎には、入り口に大きな柿の木の絵が展示されており、前日の5月17日に行われたワークショップにおいて、みんなで作った小さな折鶴がかごにたくさん入っていました。そして、全員で、この学校で、昼食をとり、再び、行進は続けられました。ここからは、パトカーに先導され、だんだん町の中心地に近づいていきます。子ども市長と、海老沼先生が大きな PACE と描かれた旗の先頭を歩き、大きな旗のまわりについているこども達、行進の後ろの方のこども達は手に小さな PACE の旗を持っています。そして、30度を越える気温の中、元気いっぱい植樹地である学校に到着しました。

植樹場所の学校では、バイオリン、クラリネットによる演奏が行われ、市長をはじめ、大勢の人々がこども達の行進の到着を待っており、大歓迎してくれました。代表の挨拶の後、演奏、校長先生の挨拶、君が代演奏、市長挨拶、フランチェスコ氏、海老沼先生の挨拶と続けました。その後、行われたこども達の出し物は、詩の朗読、



ダンスと歌、ダンスと続き、日本の詩の朗読の後に、子ども市長のスピーチがありました。こども達の出し物は、みんな一生懸命で、とても素晴らしいものでした。柿の木の植樹では、代表の子ども6名が苗木に土をかけていきました。また、地元のパン祭りの人々も参加しており、彼らの焼いたパンが市長と海老沼先生に贈呈されました。最後にイタリア国家をみんなで歌い、柿の木のまわりで、記念撮影をし、盛大な植樹式は終わりました。植樹式が終わった後も、海老沼先生は柿の木のまわりで、こども達と写真をとったり、たくさんのこども達から握手を求められていました。

レオナルド・ダ・ヴィンチ国立総合学院

 イタリア

 ブレシア県・カステネードロ市

 2011年5月19日

2008年の秋、国際的な人道組織である「戦争なき世界」から「平和と非暴力のための世界行進」というプロジェクトが発案されました。このプロジェクトにより、2009年10月2日のニュージーランドから、2010年1月2日のアルゼンチンまで、何百万人という人々の参加がよびかけられました。

そして、この「平和と非暴力のための世界行進」のブレシアのコーディネーター、ティツィアーナ・ヴォルタさんによって、2011年にここカステネードロのレオナルド・ダ・ヴィンチ国立総合学院と、ラクイラのジョスエ・カルドゥッチ第一中等学校の植樹が実現しました。

カステネードロは1990年代半ばまで、対人地雷を製造していた企業ヴァルセーラで知られる地方自治体です。柿の木を迎え入れるために、ティツィアーナ・ヴォルタさんは教育・文化査定委員会や、この地方の学区の校長先生達とも連携をとり、植樹式の1年前から、子ども達は熱意を持って、被爆柿の木2世について深く学び、その歴史的な意義についても学び、準備を進めてきました。

海老沼先生が、ティツィアーナさんに案内されて、町を歩いて植樹場所である「レオナルド・ダ・ヴィンチ」国立総合学院」に到着すると、そこ

には、市長、フランチェスコ氏をはじめ、大勢の人が既に集まっていました。校舎のガラス戸には、大きな柿の木の絵が貼られ、校庭には芝生の上に白い折鶴が点在しています。また人の背丈ほどの柿の木のオブジェも校庭の真ん中に展示されています。



植樹式は、フルート、クラリネット、木琴などによる演奏から始まりました。司会者から海老沼先生の紹介があり、プロジェクトについての説明、植樹申込者、ティツィアーナ・ヴォルタさんの挨拶、フランチェスコさん、海老沼先生、市長の挨拶と続きました。その後 各学校から子どもたちの8つの演目、詩の朗読や歌が披露されました。植樹は、既に葉の芽をつけている柿の木に、子ども達の代表が土をかけて行いました。植樹後に再び演奏があり、柿の木ふろしきの贈呈が行われました。子ども達の楽しそうな顔が印象的な植樹式でした。

コメッツァノ・チッツァーゴ中学校



イタリア



ブレシア県・コメッツァノ・チッツァーゴ市



2011年5月21日



コメッツァノ・チッツァーゴ小学校の植樹は、この学校のクレリア・ノダリ先生から応募があり、過去にこの町で起こった Launchof の原爆のことを忘れてはならないという平和への強い思いが植樹の応募動機です。

植樹式は、小学校の校庭に舞台が作られ、テニスコートを囲むようにこども達が集まっていました。舞台の真中には、日の丸の旗が掲げてあり、海老沼先生が紹介されると大きな拍手がおこりました。市長の挨拶の後、海老沼先生、さらにもう一人の市長の挨拶があり、こども達の演目がスタートしました。高学年のこども達の歌や踊り、またユーゴスラビアの民族的な踊りや、空手の技の披露もありました。高学年のこ

ども達は、各自がメッセージを描いた白いTシャツを持ち、会場内をまわった後に棒にかけていくパフォーマンスを行いました。

植樹は、代表の小さなこども達数名によって、植木鉢に入った柿の木に土をかけていきました。その横では、イタリア国旗の色、緑、白、赤の長い布を持ったこども達が布を上下にばたつかせて、柿の木を歓迎してくれました。その後市長からは、市の旗が海老沼先生に送られ、海老沼先生からは柿ふろしきが贈呈されました。

植樹の後には、学校の近くの公園の水飲み場のオープンセレモニーや、さらには、町の中心地で、彫刻展の表彰式が行われていました。